事業事前評価表

作　成　日：　平成 22 年 5 月 12 日
担当部・課：　地球環境部水資源第一課

1.　案件名

エジプト・アラブ共和国 ナイルデルタ地域上下水道公社運営維持管理能力向上プロジェクト
The Project for Improvement of Management Capacity of Operation and Maintenance for Water Supply Facilities in Nile Delta Area

2.　協力概要

（1）プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、先行プロジェクト「シャルキーヤ県上下水道公社維持管理能力向上計画プロジェクト」（2006～2009 年）の成果を普及・拡大し、シャルキーヤ県とその近傍のガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区・施設において上水道施設の運営・維持管理能力を向上することを目的として、①上下水道公社間の連携による人材育成の強化、②シャルキーヤ県上下水道公社の事例・経験を活用した、ガルビーヤ県・ミヌフィア県上下水道公社の標準作業手順書の作成・運用能力の強化及び③無収水削減能力の強化、④シャルキーヤ県上下水道公社の配水管理能力の強化を行う。

（2）協力期間

2010 年 9 月～2013 年 8 月（3 年間）

（3）協力総額（日本側）

約 5.1 億円

（4）協力相手先機関

全国上下水道公社持株会社　（HCWW：Holding Company for Water and Wastewater）
シャルキーヤ県上下水道公社（SHAPWASCO：Sharkiya Potable Water and Sanitary Company）
ガルビーヤ県上下水道公社　（GAPWASCO：Gharbia Potable Water and Sanitary Company）
ミヌフィア県上下水道公社　（MUPWASCO：Minufia Potable Water and Sanitary Company）

（5）国内協力機関

厚生労働省

（6）裨益対象者及び規模、等

直接裨益者（ターゲットグループ）：
SHAPWASCO、GAPWASCO、MUPWASCO の全職員（約 17,000 人）
間接裨益者：
SHAPWASCO、GAPWASCO、MUPWASCO の上水道サービスを受ける地域住民（約 1,300 万人）

3.　協力の必要性・位置付け

（1）現状及び問題点

エジプト・アラブ共和国（以下、「エ」国）は、国土の約 95%が砂漠地帯であるため、人口はナイル川旧氾濫原及びカイロ以北のナイルデルタ地域[1]に集中している。特に都市部において人口増加による過密化が著しいため、上下水道をはじめとする都市環境インフラの整備が急務となっている。

しかし、現在、大半の上下水道公社は、非効率な施設運転、高い無収水率（30～50%）、過剰な職員数、低い

[1] 本プロジェクトでは、要請書に基づき、シャルキーヤ、ガルビーヤ、ミヌフィア、ベヘイラ、カフルエルシェイク、ダカリーヤ、ダミエッタ、イスマイリヤ、カリオビアの 9 県をナイルデルタ地域と定義する。

水道料金に経営を圧迫され、上水道施設の運転・維持管理（以下、O&M）に必要な資金を確保できず、十分な上水道サービスを提供できていない[2]。各公社からは、特にO&Mの効率化及び無収水の削減によって経営を改善し、給水サービスを向上する、という意向が示されており、そのための技術の習得、組織体制の整備、人材育成の強化が重要な課題となっている。

1990 年代以降、「エ」国の水道事業体は行政改革によって、行政県による運営から公社による運営への切り替えが進められており、2004 年、大統領令によりHCWWが設立され、2010 年 2 月現在までに、全 28 事業体の中で 23 の水道事業体が公社化された[3]。HCWWは業務指標の管理・分析によって公社の経営やO&Mを監督するほか、マネジメント層及び研修担当者に対するトレーニング、公社間の情報共有・意見交換の推進等を通して上下水道セクターの改善を図っている。しかし、HCWW 及び各公社の人材育成の枠組みは整ったものの未だ十分に機能しているとはいえない。

本プロジェクトの先行プロジェクトとなる「シャルキーヤ県上下水道公社維持管理能力向上計画プロジェクト」（2006～2009 年）は、SHAPWASCOを対象として、効率的なO&M及び無収水削減に係る能力強化を行ったもので、結果、シャルキーヤ県のプロジェクト対象地域において、O&M に係る標準作業手順書（以下、SOP）の作成・運用及び無収水率の削減等の成果が得られた。HCWW及びSHAPWASCOによって、先行プロジェクトの成果であるSOPや無収水削減の手法は、全公社に紹介され、普及が図られている。しかし、既存の研修・訓練は、数日間の座学中心の講義やワークショップで実施されることが多く、SHAPWASCO が習得した実際的な技術・経験を普及するには至っていないため、新たな人材育成の仕組みを作ることが急務となっている。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

「エ」国政府は「経済社会開発 5 ヵ年計画」を策定し都市環境整備事業を展開しており、現在実施中の「第 6 次経済社会開発 5 ヵ年計画（2007/08～2011/12）」において上下水道整備は重点目標に掲げられている。また、同分野に設定された開発戦略の 1 つとして「無収水の削減」が掲げられている。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業計画上の位置付け

我が国は、対エジプト国別援助計画で援助重点分野の一つに「貧困削減と生活水準の向上」を掲げており、JICA は貧困削減･生活の質の向上へ向けた「エ」国政府の公共サービス拡充への取組みを幅広く支援するために、上下水道整備を含む「公共サービス拡充・改善プログラム」を推進している。上水道セクターについては、人口増加に伴い施設整備とその効率的運用の必要性が増加している状況に応じて、無償資金協力による施設整備と技術協力プロジェクトによる上下水道公社の運営・維持管理能力向上を中心とした協力を行っていくこととしている。

本プログラムに基づいて、我が国は無償資金協力「シャルキーヤ県北西部上水道整備計画」（2003～2007 年）及び「ガルビーヤ県エルマハラエルコブラ浄水場拡張計画」（2006～2009 年）、技術協力プロジェクト「シャルキーヤ県上下水道公社維持管理能力向上計画プロジェクト」（2006～2009 年）を実施し、ナイルデルタ地域の一部の県に対して支援を展開してきた。ナイルデルタ地域は、9 の行政県から構成され、約 3,000 万人（全人口の約 40%）を有する人口集中地域であるが、未だ上水道施設の運営・維持管理について不十分な公社が多い。よって、各公社の能力向上を引き続き支援するとともに、ナイルデルタ全域にプロジェクトの成果が普及されるよう人材育成の枠組みを強化する必要がある。

---

[2] SHAPWASCOクレーム室によると、2008/09 年度の苦情件数は5,872 件である。大半が送配水管の破損、断水、水質異常等、水量・水圧・水質に関係するものである。

[3] HCWW設立時に公社化した水道事業体は 14 社あり､現在 24 県 23 社がHCWW傘下にある（カイロ市、アレキサンドリア市は上水道公社と下水道公社に分かれている。また、複数県を担当している公社が 2 社ある）。なお、全 29 県 28 社の中で公社化していない事業体は、イスマイリヤ、カリオビア、ニューバレー、ポートサイド、スエズの 5 社である。

（4）他国機関の関連事業との整合性

現在、USAID 及び GTZ が関連事業を実施しているが、対象地域・分野で棲み分けされており、本プロジェクトの協力内容とは重複していない。

1）USAID

1998 年より上下水道セクターの再編を推進し、HCWW と傘下の公社という組織的枠組みを作る活動を実施した。現在は、エジプトのコンサルティング会社（Chemonics International Inc.）と契約し ミヌフィア県、ギザ県、アシュート県、ルクソール県、ケナ県を対象として、組織強化（財務・IT 等）による無収水対策プロジェクト（2009/01～2013/06）を実施中。MUPWASCO に対しては、予算作成の方法や地理情報システム（GIS）等に関するワークショップを行っている。

2）GTZ

現在、"Water and Wastewater Management Program" Phase 1（2007～2011）を実施中であり、HCWW 本社内に事務所を構えて以下の協力を展開している。同プログラムは全体で 10 年間を想定している。

① **住宅施設都市開発省**：上下水道セクターの政策・戦略決定

② **HCWW**：セントラルラボ職員に対する指導者研修、ISO17025 の習得、ドイツの O&M 評価・認証制度の導入、施設整備に係るマスタープランの策定、HCWW の組織改革及びマネジメント研修・人事制度・ビジネスプラン・職務記述書の開発

③ **ケナ県上下水道公社**：O&M、水質分析、会計、住民意識向上に係る能力開発

④ **ケナ県・カフルエルシェイク県**：村落部における排水処理施設の開発・適用

4. 協力の枠組み

（1）協力の目標（アウトカム）

1）協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

【プロジェクト目標】

シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区・施設において上水道施設の運営維持管理能力が向上する

【指標】

モデル地区・施設における業務指標（例：無収水率、断水時間、水道サービスに対する苦情件数、単位生産水量に対する電力消費量等、第 1 回合同調整委員会（JCC）までに項目及び目標値を決定）が改善される

2）協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

【上位目標】

シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県において上水道施設の運営維持管理能力が向上する

【指標】

シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県の全支所における業務指標が改善される

（2）成果（アウトプット）と活動

【成果 1】

シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県において上下水道公社の連携を通した人材育成が強化される

【活動】

1-1 HCWW・SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO のトップ層を対象にマネジメント研修を実施する

1-2 SOP に係る指導者研修を実施する

1-3 無収水削減対策に係る指導者研修を実施する

1-4 レポート・ワークショップを通して、SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO 間の協力内容・方法及び結果をナイルデルタ地域の上下水道公社に周知する

【指標】

① SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO の SOP チーム及び無収水チームにおいて、各々**名以上の職員が、ステアリング・コミッティによってセミナー・OJT の講師に任命される

② 参加者の**割以上に、ワークショップの満足度・理解度が 5 段階評価の**以上と評価される

【成果 2】

シャルキーヤ県の事例を参考に、ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル施設において運転・維持管理に係る SOP が作成・運用される

【活動】

2-1 ガルビーヤ県・ミヌフィア県の上水道施設の現状を調査する
2-2 ガルビーヤ県・ミヌフィア県においてモデル施設を 3 ヵ所ずつ選定する
2-3 SOP チームを編成する
2-4 シャルキーヤ県の施設において SOP 作成・適用に関する研修を行う
2-5 必要に応じて SHAPWASCO の SOP を更新する
2-6 SHAPWASCO の SOP を基にガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル施設の SOP を作成する
2-7 ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル施設において、SOP 運用に係る OJT を実施する
2-8 SOP 活動の達成度をモニタリングする
2-9 SOP の県内普及に係る今後の方針案・計画案を作成する

【指標】

① GAPWASCO・MUPWASCO の SOP チーム職員の**割以上に、研修の理解度が 5 段階評価の**以上と評価される

② モデル施設において、SOP に基づいた O&M（ろ過池洗浄の回数、薬品注入量、ポンプの運転台数等、第 1 回 JCC までに項目及び目標値を決定）が行われる

【成果 3】

シャルキーヤ県上下水道公社の無収水削減に係る技術・経験がガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区の職員に移転される

【活動】

3-1 ガルビーヤ県・ミヌフィア県の無収水の現状を分析する
3-2 ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区を 3 ヵ所ずつ選定する
3-3 無収水削減チームを編成する
3-4 SHAPWASCO のアクションプランをもとに GAPWASCO・MUPWASCO の無収水削減活動アクションプランを策定する
3-5 モストロッド研修センターで無収水削減活動に関する座学研修を実施する
3-6 SHAPWASCO の漏水探査ヤードで研修を行う
3-7 シャルキーヤ県の配水管理に係るモデル地区で研修を行う
3-8 ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区の配水管図面（GIS）を整備する
3-9 モデル地区の無収水の実態調査を行う
3-10 モデル地区で無収水削減活動を実施する
3-11 無収水率の調査と無収水削減活動の評価を行う
3-12 無収水削減技術の県内普及に係る今後の方針案・計画案を作成する

【指標】

① GAPWASCO・MUPWASCO の無収水チーム職員の**割以上に、研修の理解度が 5 段階評価の**以上と評価される

② 配水量分析が全てのモデル地区で実施される
③ モデル地区において、探知された漏水の**割以上が修繕される

【成果 4】
先行事例として、シャルキーヤ県上下水道公社の配水管理に係る能力が強化される
【活動】
4-1 配水管理の方法を議論し、調査を行う
4-2 配水管理に係る研修を実施する
4-3 配水管理に係る計画を策定する
4-4 配水管理のための機材を設置する
4-5 システムを運用する
4-6 配水管理に係る SOP を作成する
4-7 システム運用・SOP の評価を行う
【指標】
SOP に基づいた配水管理（水量・水圧・残留塩素等、第 1 回 JCC までに項目及び目標値を決定）が行われる

【成果 0】
プロジェクトが適切に管理・調整される
【活動】
0-1 HCWW 代表、各県上下水道公社の総裁、JICA 専門家によって構成されるステアリング・コミッティを設立する
0-2 ステアリング・コミッティを通して、3 県公社間の調整を行う
0-3 JCC を最低年 1 回行う
0-4 PDM の指標を最終決定し、第 1 回 JCC で承認を得る
0-5 活動計画（PO）をもとに年間活動計画（APO）案を策定し、JCC で承認を得る
0-6 PO/APO の進捗度及び PDM 指標の達成度をモニタリングする
【指標】
① 調整方法を記載した合意書が作成される
② PO/APO に基づきプロジェクトの進捗が定期的にモニタリングされる

(3) 投入（インプット）

1) 日本側

① 専門家
- 総括／上水道計画
- 無収水削減計画
- 漏水探知技術
- 浄水システム
- 機械技術
- 電気設備
- 管網解析
- 配水管理
- 井戸モニタリング
- 水質管理
- 業務調整

② ローカルエキスパート

- 研修技術

③ 資機材

- 漏水探査用機材
- ポータブル超音波流量計
- 設置型超音波流量計
- 地区流量計
- データロガー
- 出力付き圧力計
- 濁度計
- 残留塩素測定器
- 管網水理解析ソフト及びコンピューター
- プロジェクター及びコピー機
- 車両（ピックアップ）

④ 本邦研修

- マネジメント研修
- SOP
- 無収水対策
- 配水管理

2）エジプト側

① カウンターパート職員

- プロジェクトディレクター　：HCWW 総裁
- プロジェクトマネージャー　：SHAPWASCO 総裁
- プロジェクトコーマネージャー　：GAPWASCO 総裁、MUPWASCO 総裁
- SHAPWASCO 職員（指導者チーム、配水管理チーム）
- GAPWASCO 職員、MUPWASCO 職員（SOP チーム、無収水チーム）

② プロジェクト実施拠点の整備

- SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO 本部の執務スペース及びワークショップスペース

③ ローカルコスト

- 研修に係る旅費、宿泊費、日当、講師謝金
- 通信費、光熱費等のオフィス経費
- モデル地区の漏水修理、流量計設置工事等に係る費用
- セミナー開催、資料印刷、広報に係る費用

④ その他

- 必要な情報、データ、資機材

（4）外部要因（満たされるべき外部条件）

1）前提条件

SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO の研修予算が配分される

2）外部条件

【プロジェクト目標達成のための外部条件】

研修を受けた職員が引き続き水道公社で働く

マネジメント層の異動によりプロジェクトの実施が妨げられない

【上位目標達成のための外部条件】
上水道セクターの政府方針が大きく変更されない

5. 評価5項目による評価結果

(1) 妥当性

本プロジェクトの妥当性は、以下の理由から高いと判断される。

① 「エ」国の開発政策との整合性

「エ」国政府の「第6次経済社会開発5ヵ年計画（2007/08～2011/12）」において、上下水道整備は重点目標に挙げられ、特に「無収水の削減」を重点とする方向性が示されている。また、上下水道公社の経営に関しては、上水道施設 O&M の効率化及び無収水削減に係る能力向上が優先課題となっており、本プロジェクトの支援内容はエジプト側のニーズに合致している。

② 我が国援助政策との整合性

我が国は、対エジプト国別援助計画で援助重点分野の一つに「貧困削減と生活水準の向上」を掲げ、上下水道整備を含む「公共サービス拡充・改善プログラム」を推進している。本プロジェクトは、同プログラムを構成するプロジェクトの一つとして実施するもので、我が国援助政策との整合性は確保されている。

③ 我が国の援助経験

我が国は、無償資金協力「シャルキーヤ県北西部上水道整備計画」（2003～2007年）及び「ガルビーヤ県エルマハラエルコブラ浄水場拡張計画」（2006～2009年）、技術協力プロジェクト「シャルキーヤ県上下水道公社維持運営管理運営能力向上計画プロジェクト」（2006～2009）を実施しており、本プロジェクトの協力相手先機関への援助経験を有するとともに、同先行事例の教訓・成果を活用することが可能である。また、我が国は現在インドネシア、ベトナム、ヨルダン等で水道事業体の連携体制の整備や上水道施設の O&M 能力強化、無収水削減に係る能力強化を含む技術協力プロジェクトを実施中であり、それらのプロジェクトの枠組みを参考に本プロジェクトの協力内容を検討している。以上より、本プロジェクトは我が国の援助経験が十分に活用されている。

④ プロジェクト対象地域の選定

本プロジェクトの対象県は、エジプト側によって、地理条件、裨益人口、他国援助機関との整合性を基準に選定されている。シャルキーヤ県からガルビーヤ県、ミヌフィア県、カイロまで車で約2時間の距離であり、セミナー・OJT 及び関係機関の会合等、定期的な交流が可能な位置関係にある。また、対象3県は、ナイルデルタ地域全体の約4割の人口（約1300万人）を有しており、高い裨益効果が見込まれる。さらに、SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO は、過去、他国援助機関による技術支援を受けていない。以上より、本プロジェクトでこれら3県を対象とすることは意義がある。なお。本プロジェクトは、各県の代表的な上水道施設及び無収水削減活動地区を選定し、同施設・地区を対象に協力を行い、県内外に対するモデルとすることを関係者間で合意している。モデル施設・地区は、プロジェクト開始後、各県の現状調査を行った上で決定される。

(2) 有効性

本プロジェクトは、次のような有効性が見込まれる。

① プロジェクト目標と成果の関係の適切性

プロジェクト目標は「シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県のモデル地区・施設において上水道施設の運営維持管理能力が向上する」であり、具体的には、①上下水道公社間の連携による人材育成の推進及び②GAPWASCO・MUPWASCO の SOP 作成・運用能力、③無収水削減に係る能力、④SHAPWASCO の配水管理能力の向上を図るものである。

- 成果1は、「公社間の連携を通じた技術・経験の移転」という新たな人材育成の仕組みを推進することを成果としている。現在、HCWW は公社間の情報共有・意見交換を促進するための総裁会議や講師派遣等、公社間連携に係る枠組み整備を進めている。OJT による技術移転の方法や指導者の育成、関係機関の調整に

ついて支援を行うことで、HCWW 及び各公社の組織能力が強化されるとともに、同枠組みが強化されることが期待される。

- 成果 2 及び 3 は、先行プロジェクトの成果である SHAPWASCO の SOP を参考に GAPWASCO・MUPWASCO の SOP が作成・運用されること、SHAPWASCO の無収水削減に係る技術・経験が GAPWASCO・MUPWASCO 職員に移転されることを成果としている。これらの成果が達成されることで、ガルビーヤ県・ミヌフィア県の上水道施設の運営・維持管理に係る基本的な能力が強化される。
- 成果 4 は、配水管理技術を「エ」国における先行事例として SHAPWASCO に導入することを成果としている。配水管内の水量・水圧・水質を監視し適切に管理することは、各公社の優先課題の一つである。この成果が達成されることで SHAPWASCO の運営・維持管理能力が一段階上の水準に強化されるとともに、プロジェクト終了後、シャルキーヤ県から他県に技術普及されることが見込まれる。

以上より、本プロジェクトではプロジェクト目標を達成するために必要となる十分な成果が、組織能力の改善と技術の習得の両面から計画されている。

② 外部条件充足の見込み

プロジェクト目標に至るまでの外部条件のうち、「マネジメント層の異動によりプロジェクトの実施が妨げられない」については、SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO 総裁 3 名の任期（3 年、継続可）に留意する必要がある。

(3) 効率性

本プロジェクトは、以下の理由から効率的な実施が見込まれる。

① 活動内容の効率性

以下の点が関係者間で合意されており、効率的な活動が期待される。

- HCWW 及び SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO はステアリング・コミッティを通して定期的に連携の調整を行う。
- 総裁会議等、既存の枠組みを連携促進の場として活用する。

② 投入の適切性

本プロジェクトは、先行プロジェクトで実施した SOP の作成・運用及び無収水対策については、SHAPWASCO 職員を指導者（セミナー講師、OJT 実施要員）とすることで日本人専門家の投入を抑える計画となっている。SHAPWASCO は、職員 14 名から構成される指導者チームを編成し、GAPWASCO・MUPWASCO に対して日本人専門家の 5 割程度の投入を行うことに合意している。また、エジプト側で、プロジェクト初年度より公社間連携による研修・OJT の実施に必要な費用（交通費、日当、宿泊費、講師謝金等）が確保される。

(4) インパクト

本プロジェクトの実施によって、以下のインパクトが発現することが期待される。

① 上位目標の達成の見込み

本プロジェクトの実施により、SOP 作成・運用及び無収水削減に係る技術・経験を有する職員が指導者として養成されるため、その効果がモデル施設・地域から、同一県内の他の施設・地域に普及され、上位目標が達成されることが見込まれる。一方、普及には、外部条件で示した「上水道セクターの政府方針が大きく変更されない」こと、特に研修予算が継続して配分されることが必要である。エジプト側は、同外部条件充足の必要性を認識しているが、関係機関の協力・調整について我が国の積極的な働きかけが必要である。また、本プロジェクトの成果は、総裁会議を通してナイルデルタ地域の他の公社に共有されるため、3 県公社の SOP の作成・運用、無収水削減、配水管理に係る能力強化の実施及び公社間連携の方法・結果の波及が期待される。

② 効果の波及

本プロジェクトの実施により、SHAPWASCO・GAPWASCO・MUPWASCO のモデル地区・施設の運営・維持能力が強化され、シャルキーヤ県・ガルビーヤ県・ミヌフィア県における上水道サービスが改善されることが期待される。

(5) 自立発展性

本プロジェクトの効果は、以下の理由から自立発展する見込みが高い。

① 制度面

エジプト側は、本プロジェクト終了後、プロジェクトの枠組みを拡大して SHAPWASCO･GAPWASCO･MUPWASCO が習得した技術・経験をナイルデルタ全域に普及する、ということに同意している。また、現在 HCWW によって上下水道公社間の連携に係る枠組み整備が進められているため、同枠組みが活用され、プロジェクトの成果が自立発展的にナイルデルタ地域に普及されることが見込まれる。

② 組織・財政面

本プロジェクトは、各公社の現行組織に SOP の作成・運用、無収水削減、配水管理、研修指導等を担当するチームを設置して実施する。SHAPWASCO はこれらの活動が公社の収益向上、経営改善に貢献することを認識し、先行プロジェクトの後、チームを発展させて SOP 部及び無収水対策部を正式に設立した。GAPWASCO・MUPWASCO も同様に、施設 O&M の効率化及び無収水の削減による経営改善を優先課題として掲げており、SHAPWASCO に倣いチームを設立中である。以上より、組織・財務面の自立発展性は高いと判断される。また、漏水修理、流量計設置工事等、活動に必要な費用はエジプト側が負担することで合意しており、公社間連携による研修・OJT の費用も予算化されることが確認されているため、プロジェクト終了後も活動が継続されることが見込まれる。

③ 技術面

先行プロジェクトの成果でもある SOP 及び無収水削減対策は、エジプト側の高い評価を得ており、GAPWASCO・MUPWASCO は、SHAPWASCO からの技術移転を期待していることから、技術受容性は高く定着が見込まれる。また、SHAPWASCO に対する配水管理能力強化は、プロジェクト前半約 1 年半をかけて必要な調査・分析及び管理システムの検討を行い、プロジェクト後半でモデル地区を選定し試行を行うこととしており、技術的妥当性・持続性が確保されたシステムの導入が見込まれる。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

貧困・ジェンダー等の配慮を要する特別の負の影響は予測されない。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

「シャルキーヤ県上下水道公社維持管理能力向上計画プロジェクト」の教訓、成果（ヨルダンの類似プロジェクトの経験学習・情報交換、既存施設の詳細調査、目に見える改善成果の設定、カウンターパートの OJT 実施要員育成、プロジェクトチーム会議のカウンターパート主導による運営、JICA 専門家不在期間中のカウンターパートによる活動のフォローアップ等）を活用する。

8. 今後の評価計画

中間レビュー： 2012 年 1 月頃を目処に実施
終了時評価 ： 2013 年 2 月頃を目処に実施
事後評価 ： プロジェクト終了後 3 年を目途に実施